



## 自然と共に生きる 緑豊かな街

フライブルク市のヴォーバン住宅地を歩くと、菩提樹とプラタナスの古木が道路沿いや公園に大きく枝を広げ、住宅の前庭も緑であふれています。住宅地の西側にはビオトープとしての小川が流れていて、これらは緑の帯でつながるように計画されました。今回はフライブルク市の緑豊かな自然と、それを守る市民の活動をご紹介します。



自然のままの小川はビオトープの役割を担う

### ヴォーバン住宅地の 樹木保護政策

ヴォーバン住宅地には、約70年前に兵営地の街路樹として植えられた菩提樹やプラタナスがその姿を残しています。これらの樹木が残っているのは、住宅地開発が決定されたときに「フライブルク市樹木保護条例」が締結され、それが厳しく守られてきたからです。都市計画もこの樹木を切らないように計画され、宅地を買った人も樹木を避けて住宅を建てることとなりました。どうしても理由があつて切り倒さなければならぬ場合は、代わりとして同種の木を植樹することが義務づけられています。



また、フライブルク市は個人敷地の前庭と道路の間に1.5m

の緑地緩衝帯を設け、この前庭を住民が植栽し管理する「緑地の里親制度」を導入しています。これにより、住民は前庭のスペースが広くなり、道路の環境に気を配ります。地域への愛着が募ると同時に、市はメンテナンスのコストを削減できるのです。

さらに、ヴォーバン住宅地の西側には小川があり、水辺を好む樹木や生態系が緑の帯を作っています。ここでは倒木も撤去されずに、朽ちた樹木に棲む昆虫や菌類を保護することで生物の多様性が維持されているのです。



隣地との境界は生垣



小学校体育館の屋上緑化



エコステーション・フライブルク



市民への賃貸農園、クラインガルテン

### 子供たちへの 自然教育

フライブルクでは環境教育に取り組んでいるさまざまな人たちがいます。その一つがドイツ環境自然保護連盟(BUND)です。エコステーション・フライブルクはBUNDの環境教育センターとして1986年に設立された、有機菜園を備えた低エネルギーハウスで、環境に配慮した工夫がこらされています。年間を通して学校や幼稚園の約200グループが訪れて「緑の教室」を体験。生徒たちは池や土の中に棲む生き物を観察して、そこに多くの多様な生物が棲んでいることを知り、有機菜園では果物や野菜だけでなくハーブについても学びます。エコステーションは子供たちの学びの場だけでなく、環境に関心のある人たちの交流の場ともなっています。

### 小さな農園 クラインガルテン

フライブルク市のほぼ全域にあるのが、100年以上の歴史を持つレンタル農園「クラインガルテン(小さな庭)」。1区画の



ワークシェアリングでできた時間をクラインガルテンで過ごす親子(左)とラウベ前のご夫妻(右)



エコステーション・フライブルクでは、緑の教室が開かれる



石畳の雨水通路までの1.5mは「緑地の里親制度」で住民が管理する



既存の樹木伐採を禁止した、緑豊かなヴォーバン住宅地



地下水にも配慮した軌道沿いの雨水マス



子供冒険農場での自然教育



エコステーションのビオトープ